



Yokohama City University

年表



横浜市立大学
創立年

1882	1888	1917	1928	1944	1949	1952	1984	1995	2001	2005	2018	2019	2028
横浜商法学校(Y校)設立	横浜商業学校に改称	横浜市立横浜商業学校に改称	横浜市立横浜商業専門学校(Y専)設立	横浜市立経済専門学校に改称	新制大学として横浜市立大学設立(商学部)	3学部となる(商・文理・医)	木原生物学研究所設立	文理学部を改組国際文化学部・理学部設置看護短期大学部設置	鶴見キャンパス設置	公立大学法人横浜市立大学発足国際総合科学部・医学部看護学科設置	データサイエンス学部設置	国際教養学部・国際商学部・理学部設置	創立百周年

1871	1872	1874	1891	1944	1949	1954	1991	2005
横浜仮病院設立	横浜中病院開院後に横浜共立病院に改称	神奈川県に移管、県立十全医院に改称	横浜市に移管、横浜市十全医院に改称	横浜市立医学専門学校附属十全医院に改称	横浜医科大学病院に改称	横浜市立大学医学部病院に改称	医学部附属病院開院	附属病院に改称



早仕仕有が「仮病院」を開設

1874



開院当初の十全病院

1957



金沢八景キャンパスに新校舎設立

2018



首都圏初のデータサイエンス学部誕生



1958年頃の横浜市立大学医学部病院(浦舟)

1991	2000	2005
医学部附属浦舟病院に改称	医学部附属市民総合医療センターに改称	附属市民総合医療センターに改称



2000年代初頭の附属病院

創立百周年を迎えます

2028年に

横浜市立大学は



ひらく×つなぐ
=かがやくYCU

横浜市立大学の歴史には、
時代を駆け抜けた人々の思いがあります。

商学の発展のために、医療の発展のために、
力を尽くした先人たちがいます。

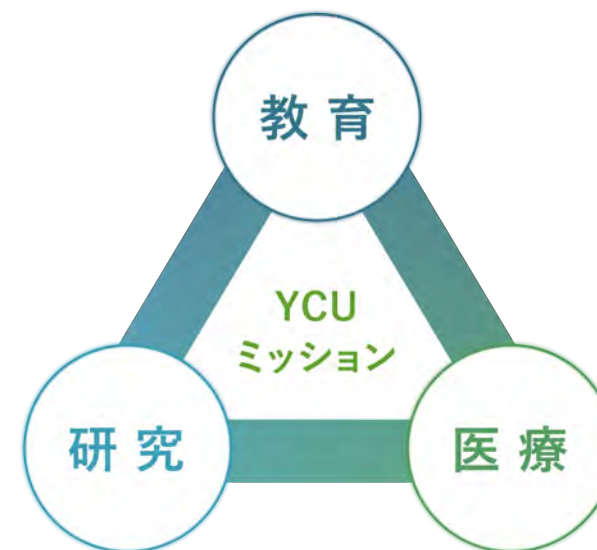
時代をも越える英知を持ち、
賢明に時代をリードしてきた人々。

わたしたちは歴史の一途をたどりながら、
先人の功績に感謝し、そして世界を目指し、
時代の先へと向かって歩き続けます。

未来をひらき、それによりこれまでの100年を
これからの100年につないでいくことで、
みんなが輝くYCUでありたいという想いとともに。

YCU ミッション

国際都市・横浜と共に歩み、
教育・研究・医療分野を
リードする役割を果たすことをその使命とし、
社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。





Digital, Medical, Global

新たな社会の創造をリードし、 未来を拓く横浜市立大学へ

横浜市立大学は、「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と、世界とつながる「知の拠点」として世界水準の研究を進めます。

県内唯一の公立大学医学部・附属病院として、最先端の医学研究に取り組むとともに、市民の健康と命を支える「最後の砦」としての機能を果たし続けます。

研究の 横浜市立大学

強みや特色のある研究を核に
研究成果の社会実装を推進する
とともに、社会の要請や変化に
柔軟に対応し最大限のパフォー
マンスを発揮する

地域の中核と なる大学

「知の拠点」である大学だ
からこそその強みを生かし、
地域・社会と連携し、課題
解決をリードする



For RESEARCH

研究

知の創生・発信

独創的かつ革新的研究、
分野融合型研究によるイノベーションの創出、
世界と繋がる「知の拠点」として、
地域をけん引する連携基盤を築いています。

YCUが誇る先端的研究成果の発信拠点



木原生物学研究所

当研究所では、理化学研究所等と連携し、ゲノム科学や遺伝学、バイオインフォマティクスやケミカルバイオロジーなど幅広い分野の最先端植物科学研究を通して、持続可能な社会への貢献を目指しています。



先端医科学研究センター

福浦キャンパスに設置された当センターでは、がん、生活習慣病などの克服を目指した基礎研究と、その成果を臨床に応用する橋渡し研究（トランスレーショナル・リサーチ）を推進しています。

国際学術雑誌での
発表論文数が
増加

2005年の
論文数
441本

2024年の論文数
1,119本
法人化以降
約2.5倍にアップ

Clarivate Analytics社の
InCitesデータベースより算出
(Article & Review)
※日本語論文は含まず
※各年度の初めに算出した数（共著含む）

医学、基礎生命科学、植物科学を中心に、
世界の注目を集める研究成果を数々発信しています



種の壁を乗り越える
次世代育種技術の
開発へ／
木原生物学研究所



JAXAと共同研究／
先端医科学
研究センター



ワニの
ヘモグロビンの
もつ特徴的な
アロステリック制御
のしくみを解明



卵巣明細胞がんの
新規診断マーカー
の開発

Eテスト「TOSOH」® II
(TFPI 2)免疫反応試薬



子育て世代の
時間貧困解消と
男女共同参画を
めざした
産学官共創ラボ

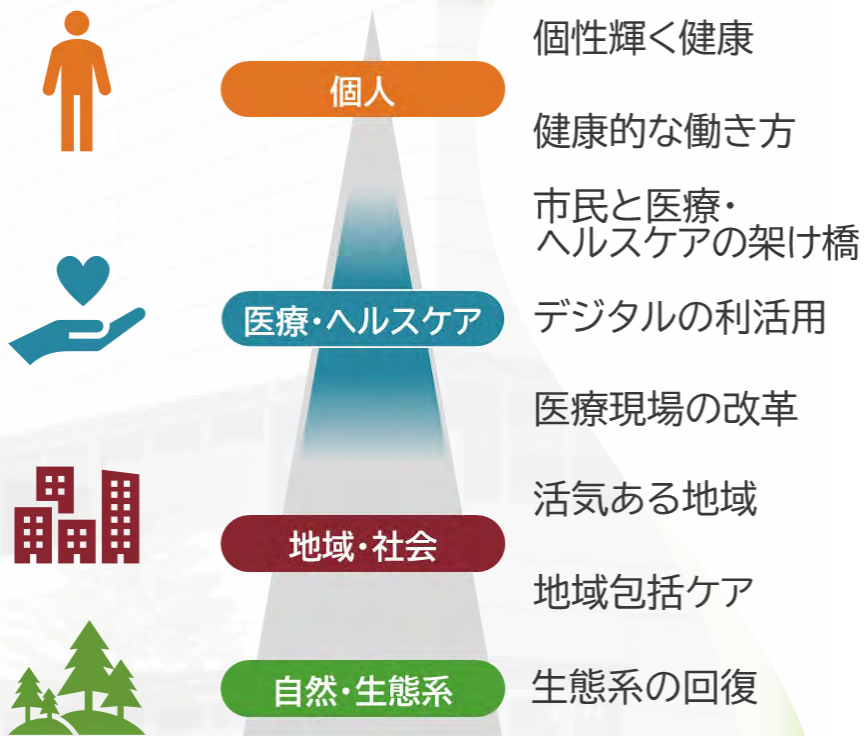


山火事により
発生するガス状
有害物質の放出量は
「燃焼温度」の影響が
大きいことを発見



凹んでも、もどる心を。
Minds1020Lab
MINDS1020LAB

若者の生きづらさを解消し
高いウェルビーイングを
実現する共創拠点



横浜・神奈川から世界へ、未来へ。
一人ひとり輝くウェルビーイングを
共に叶えることを目指して



共創イノベーションセンター

本学の産学連携研究のさらなる発展と社会実装に向けた中心的な役割を担う新しい産学官民連携、オープンイノベーションを推進する組織として、2024年4月にYCU共創イノベーションセンターを新設。多様なステークホルダーと共に、社会アジェンダ（社会課題・テーマ）を設定し、解決・実現を目指します。



横浜臨床研究ネットワーク
協定病院
(2024年5月現在)

横浜臨床研究ネットワーク

研究活性化の取り組みの一環として、横浜市内を中心とした15の医療機関によって構成されたネットワークを構築し、治験を含む臨床研究の推進を目指しています。

地域医療を支える医師派遣

常勤医派遣数

2,099名

- ・ 横浜市内 1,102名
- ・ 横浜市外(県内) 818名
- ・ 神奈川県外 179名

派遣病院数 **175院**

非常勤医派遣数

1,406名

- ・ 横浜市内 814名
- ・ 横浜市外(県内) 546名
- ・ 神奈川県外 46名

派遣病院数 **273院**



For J-PEKAS

J-PEAKS

本学の取組概要等について説明します。

国際都市横浜と共に歩み、 教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことを使命とし、 社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す

なぜ横浜なのか！

人口377万人

多様な都市構造

多様な社会課題

日本の縮図

- 社会課題が複雑化する現在、1つの企業、1つの自治体では課題を整理・解決できない

自治体や企業とともに社会課題を解決する、その中核を担うのは大学
文理医データサイエンス融合の研究組織を活用し、データを解析し、結果を社会に提供

研究力が向上した10年後の大学ビジョン

共創を加速する「よこはまデータサイクル」を構築し
未来社会における高いヘルスウェルビーイングを実現する

- 本学が目指すヘルスウェルビーイングとは、身体的健康と精神的健康が保たれた状態を意味します。

10年後の大学ビジョン

文理医看の融合による卓越研究の推進と大学改革を通じて地域を牽引し、
「よこはまデータサイクル」によるAI・データ活用で社会課題の解決とイノベーション創出を
目指す、未来社会のヘルスウェルビーイングに貢献する大学。

卓越研究(ヘルスウェルビーイング分野)を
戦略的に加速させるための組織強化

研究:多様性・卓越性

グローバルウェルビーイング
研究ユニット

新学際研究の推進

研究力評価機構

国際リサーチボード

文理医融合研究による
科学的エビデンスを提供

大学の研究成果と社会アジェンダ
解決をつなぐイノベーションの創出

開発:社会実装・イノベーション

横浜市立大学附属病院
次世代臨床研究センター
Y-NEXT YCU Center for Novel and Exploratory Clinical Trials

横浜市立大学
YCU 共創 イノベーション
センター
YCU CO-CREATION INNOVATION CENTER

大学間コンソーシアム

新研究棟

3F 最先端研究の場
2F 産学連携の場
1F 社会実装の場

科学的エビデンスに基づく
ソリューション開発

自治体・市民を
巻き込んだ
社会実装

Research
研究

共創を加速する

よこはまデータサイクル

Develop
開発

AI・データハブ

Implement
実装

産産学官民連携による
知識集約型社会の形成

実装:地域課題解決

シチズンサイエンス
プラットフォーム

技術系スタートアップ
成長支援拠点

横浜臨床研究
ネットワーク

横浜市

データ活用に関する横浜市との包括
連携協定

横浜市と協業している社会アジェンダ

- ・ 若者のメンタルヘルス
(若者コホート)
- ・ 健康横浜21を中心とした健康課題
(よこはま健康研究)
- ・ 子育て世代の課題・少子化対策
(ハムスタディ)
- ・ 医療提供体制の不足など



取組み概要

	取組概要		10年後の指標
研究 ターゲット1	AP①	拠点系研究開発事業の加速	●論文数:1,434報 ●年間1億円以上の大型研究:15件 ●採択数:15件 ●世界有数のヘルスウェルビーイング研究拠点を構築する: Times Higher Educationのヘルス&ウェルビーイング領域で 世界10位以内
	AP②	研究力評価機構の設立と卓越教員による新学際研究の推進	
	AP③	海外の研究機関との連携による国際研究力の強化	
	AP④	データドリブンによる地域課題の科学的エビデンス構築	
開発 ターゲット2	AP⑤	臨床研究ネットワークの強化による広大な実証フィールドの構築	●民間企業等との1,000万円以上の大型共同研究契約数:30件 ●大学発シーズの企業へのライセンスアウト数:45件 ●社会アジェンダを起点とした海外連携大学・連携機関数:150機関 ●総外部研究費に占める民間企業からの共同/受託研究費比率:5割
	AP⑥	産学官連携強化、学内シーズの集約による次世代型共創拠点の形成	
実装 ターゲット3	AP⑦	アントレプレナーシップ教育と大学発スタートアップ創出支援の連動	●自治体との共同/受託研究件数:70件 ●大学発スタートアップ創出数:42社 ●行政と協力して立案した、または立案に関与した政策プログラム (事業)の数:50件
	AP⑧	シチズンサイエンス・プラットフォーム形成による社会実装の推進	

WG⑨
研究支援人材研究支援人材の育成・
採用・獲得WG⑩
コアファシリティ先端研究機器等の整備、
活用による研究基盤の
強化WG⑪
研究時間の確保卓越教員制度の導入に
よる研究エフォート確保WG⑫
広報戦略大学全体の広報 or
研究広報横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

実施体制

提携先：アカデミア

慶應義塾大学
(SFC研究所)
慶應義塾大学
(KMD)

医学領域研究との有機的な連携によるメタバース、VR等のデジタルコンテンツ開発

東京大学
(先端研)

VR技術、拡張現実感、ウェアラブル技術、ロボット技術を活用した医工連携

東京科学大学

医学領域と工学領域の連携によるプロダクト創出による研究成果の社会実装

実中研

トランスレーショナルリサーチの知見に基づく橋渡し研究を推進

関東学院大学

研究成果の知財活用を強化し
社会実装を推進

神奈川県立
保健福祉大学

保健医療福祉分野の疫学研究
における産学連携研究開発

神奈川大学

大学間連携コンソーシアムにおける
ハブ機能
人間科学研究と医系研究の融合

スタンフォード大学
(アメリカ)

調査、プログラムの共同開発
米・アジアにおけるウェルビーイング
とメンタルヘルス
に関する開発

ルール大学ボーフム
(ドイツ)

欧州におけるウェルビーイング
とメンタルヘルスに関する調査、
プログラムの共同開発

本学の強みを有する連携群

臨床研究ネットワーク

市大関連病院
健診センター
クリニック

データ連携による社会課題
の抽出・評価・解決

シチズンサイエンス
プラットフォーム

地域連携による
円滑な研究推進

連携先：企業群

創業・ヘルスケア
アプリ開発
サービス開発

産学官民連携による
研究成果の社会実装を加速



自治体：横浜市

こども青少年局

健康福祉局

教育委員会

政策経営局

経済局

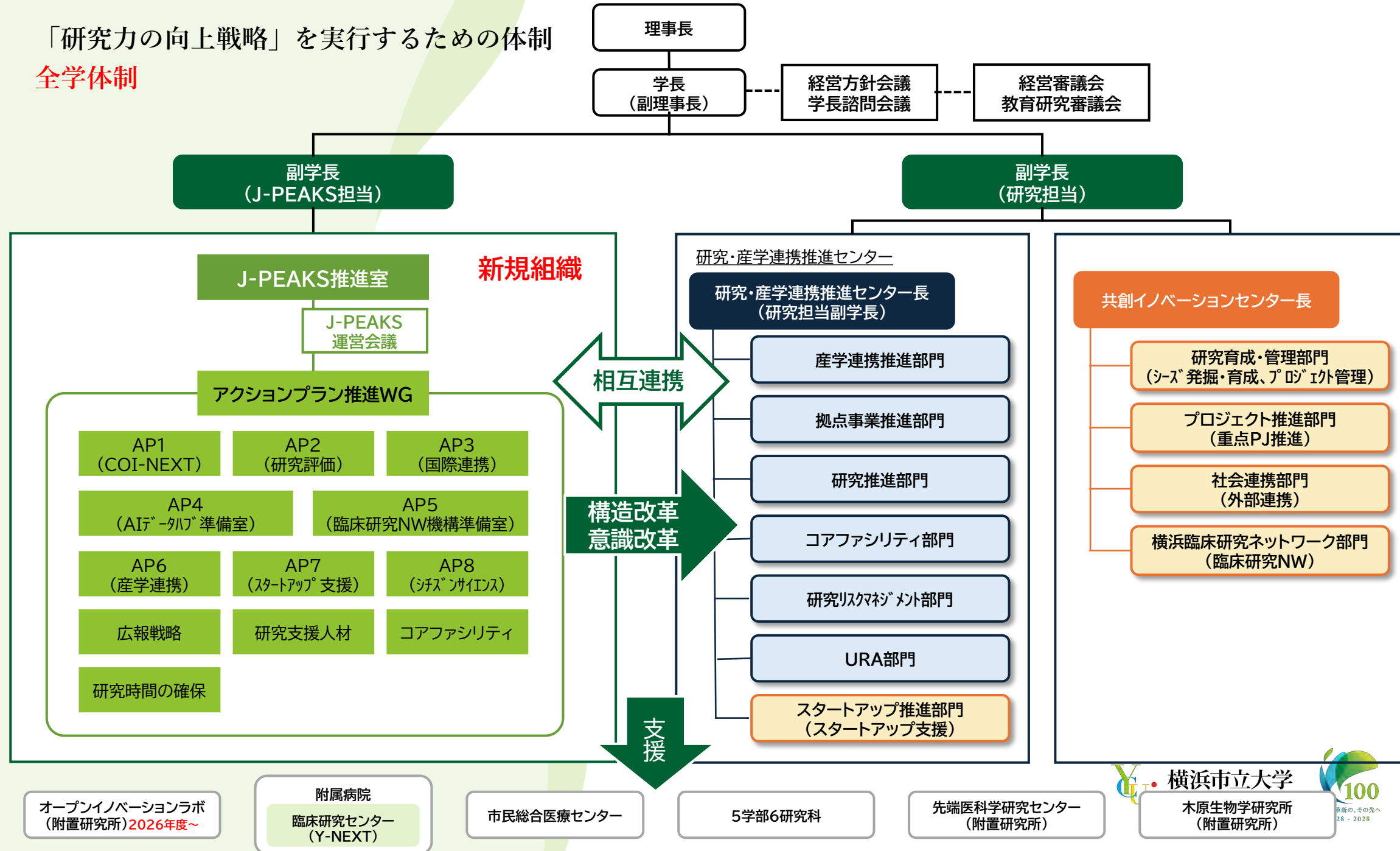
医療局

TECH HUB YOKOHAMA (Deep tech系スタートアップ成長支援拠点)

多彩なフィールドデータから社会課題を抽出、最適な解決策を創出・選択・評価
スタートアップ創出支援を中心とした産業振興や地方創生での連携

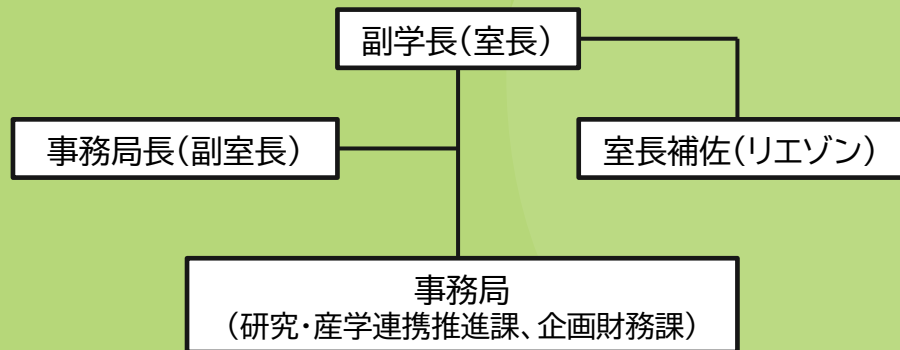


「研究力の向上戦略」を実行するための体制
全学体制



「研究力の向上戦略」を実行するための体制

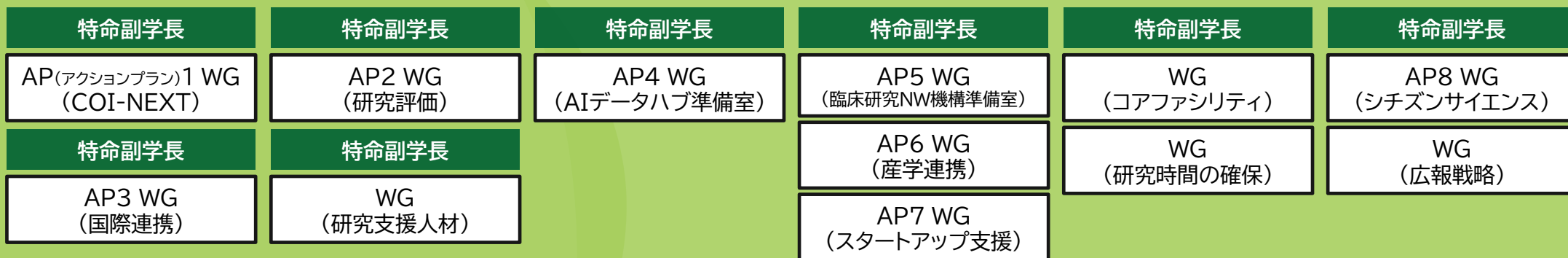
J-PEAKS推進室



J-PEAKS 運営委員会

構成員：室長、副室長、室長補佐、特命副学長、事務局
(必要に応じて学内理事参加、情報共有)

各WGから上げられた内容の情報共有のほか、予算、審議、将来構想・大学改革について議論、必要に応じて、経営方針会議・教育研究審議会で審議・報告(月1回程度)



産学官連携によるイノベーション創出拠点

地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業の活用

連携機関および企業が共同で研究を実施できるインキュベーション施設であり、研究者が自由に研究し、かつ気軽に研究支援人材と交流できるオープンラボを併設することで社会実装の実現性が高い革新的イノベーションを創出する

オープンイノベーションラボ I (2,772m²)

COI-NEXTで推進しているメンタルヘルスケアに資するデジタルメディスンやデジタルデバイスを開発するラボおよびメタバース空間を構築し、当該研究を加速させる。またここで培われた知識や技術をメンタルヘルス以外の領域にも展開することで拡張性のある研究を展開する。
また開発プロダクトを社会実装するにあたり必要な産学連携を推進する支援部門（共創イノベーションセンター）の事務局を整備する。

産学連携研究用のラボ併設インキュベーション施設

3F	メタバースラボ	オープン イノベーションラボ		
2F	産学連携ルーム 若手教員居室	共創イノベーション センター、URA、研 究推進部事務室		
1F	次世代臨床研究セン ター 事務室	セミナールーム	1F	MRI室





Start in Yokohama.

ヨコハマから始まる

金沢八景キャンパス本校舎中庭